

目指す学校像	子どもたちが嬉々として登校し、充実感に満ちて家路につく学校
重点目標	1 よさを見つけ、認め、伸ばすことで、児童一人ひとりが達成感を味わえる教育活動を展開する。 2 安心・安全で美しく整えられた教育環境づくりと、セーフコミュニティの取組を通じた「自助・共助」の意識の育成を図る。 3 コミュニティ・スクールの取組を通じて、学校・家庭・地域の連携を深め、「オール大宮北小」の具現化を図る。 4 教師の指導力の向上を図り、「アクティブ・ラーニング」の視点で、学び方が身に付く教育実践に取り組む。

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和6年2月2日
1	(現状) ①R4 市学調「国語の勉強は好きですか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は R3 と比較し、3～6 学年で上回った。同じく「算数の勉強は好きですか」は、R3 より下回ったが、全体としては向上が見られた。 ②R4 学校自己評価「学校の勉強は、よくわかり、楽しい」の質問項目において、児童の肯定的な回答の割合は 85.5%であり、目標とした 90%以上に達することはできなかった。 ③R4 学校自己評価「学校で元気に遊んだり、運動したりしましたか」の質問項目において、児童の肯定的な回答の割合は 80.6%とやや低い。 (課題) ①学校における ICT 機器活用の機会が大幅に増加している中、若手・ベテラン教員ともに ICT 機器活用能力の向上が喫緊の課題である。 ②リフレッシュ改修工事に伴い、校庭の大部分が使用不可となるため、児童の体力の低下が懸念される。	・ICT機器の効果的な活用による国語・算数の授業改善 ・リフレッシュ改修工事に伴う児童の体力の向上	①学校課題研修において「ICT機器の効果的な活用」をテーマに、ICT機器の具体的な活用方法に関する研修や効果的な活用方法の共有などを通して、ICT機器の活用を促進するとともに、「わかる、楽しい」魅力ある国語・算数の授業の実現を図る。 ①「外遊びの約束」を新たに作成し、曜日ごとに学年で場所を区切って運動を行う。 ②年間を通して朝運動を実施し、内容の工夫改善を通して児童の体力向上を図る。	①R5 全国学調及び市学調「国語・算数の勉強は好きだ」の質問項目において、肯定的な回答の割合をR4の値より向上させることができたか。 ②R5 学校自己評価「学校の勉強は、よくわかり、楽しい」の質問項目において、児童の肯定的な回答の割合を 90%以上にできたか。 ①R5 学校自己評価「学校で元気に遊んだり、運動したりしましたか」の質問項目において、児童の肯定的な回答の割合を R4 の値より向上させることができたか。 ②年間を通して朝運動を計画的に実施することができたか。また、児童の実態に応じて内容を工夫改善し、充実させることができたか。	①R5 全国学調「国語・算数の勉強は好きだ。」の質問項目において、肯定的な回答の割合は R4 と比較し国語で 8.5%増、算数は 0.7%減、R5 市学調では国語で 6.7%、算数で 0.6%の増となった。 ②R5 学校自己評価「学校の勉強は、よくわかり、楽しい」の質問項目において、児童の肯定的な回答の割合は 83.7%であった。 ①R5 学校自己評価「学校で元気に遊んだり、運動したりしましたか」の質問項目において、児童の肯定的な回答の割合は 82.1%であり、R4 と比較し 1.5%増となった。 ②校庭・体育館遊びのルールを新たに設けるとともに、学年ブロックごとに週 1 回、計 3 回の朝運動の時間を設定した。児童の実態や気候に合わせて内容を工夫し、年間を通して計画的に実施することができた。	B	・研修を通して指導力の向上を図るとともに、ICT を効果的に活用し、魅力ある授業の提供に努めていく。 ・校庭使用に制限がある中で、工夫して体育の授業や外遊びを実施することができた。次年度も、仮設校舎撤去までの期間については、児童や保護者の意見を取り入れながら、安全に留意し児童の体力向上に取り組んでいく。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 ・次年度も校庭の使用制限が続くが、創意工夫により、児童の運動機会の確保と体力の向上を図ることが重要である。
2	(現状) ①R4 学校自己評価「毎日学校に来ることを楽しみにしていましたか。」の質問項目において、児童の肯定的な回答の割合は R3 を上回ったものの、84.1%にとどまっていた。 ②リフレッシュ改修工事については、立入禁止区域の設定や工事車両の出入りなど、担当課や施工業者と一層の連携を図り、入念な安全点検のもと、事故なく進捗している。 (課題) ①仮設校舎の新設に伴い、校庭の大部分が使用できない状況にあり、今後の移転など、児童の心身への影響が懸念される。 ②夏季休業期間中に仮設校舎への移転が予定されているため、それに向けての計画立案や準備作業が大きな負担である。 ③R4 に引き続き、工事及び工事車両の出入りがある中での教育活動となるため、安全対策を万全にする必要がある。	・児童が安全に、毎日元気に登下校できる学校づくり ・リフレッシュ改修工事に伴う校舎移転の円滑な実施	①日々の挨拶やコミュニケーション、「心と生活のアンケート」や教育相談等を最大限活用し、児童一人ひとりに寄り添い、改修工事に伴う児童の心身への影響を最小限に抑える。 ②2学期以降は仮設校舎での教育活動となるが、制限のある中でも教職員の創意工夫による教育活動を展開する。 ①担当課、施工業者と連携し、連絡調整を密にすることで、夏季休業中に予定されている仮設校舎への移転を円滑に実施し、教育活動との両立を図る。 ②リフレッシュ改修工事に関する情報を保護者・地域に定期的かつ積極的に発信し、理解を得られるようにする。	①R5 学校自己評価「毎日学校に来ることを楽しみにしていましたか。」の質問項目において、児童の肯定的な回答の割合をR4の値より向上させることができたか。 ②防犯ボランティアと連携し、リフレッシュ改修工事に伴う児童や保護者、地域の方々、教職員の安全に万全の体制を構築することができたか。 ①夏季休業期間の移転作業を円滑に実施することができたか。 ②リフレッシュ改修工事に関する情報を定期的に学校 Web ページ等で公開できたか。	①R5 学校自己評価「毎日学校に来ることを楽しみにしていましたか。」の質問項目において、児童の肯定的な回答の割合は 81.4%であり、R4 と比較し 2.7%減となった。 ②防犯ボランティアとの情報共有に加え、工事担当課や施工業者とも連携を密にし、工事に伴う事故 0 を達成することができた。	B	・仮設校舎での生活や、長引く校庭の使用制限により、児童が潜在的なストレスを抱えている可能性も考えられる。引き続きアンケートや面談等を活用して、不安や悩みの早期発見・解決に取り組んでいく。 ・次年度も交通指導員や防犯ボランティア、工事関係者と協働し、児童の見守り体制を強化していく。	・今年度の SSN 連絡協議会では、各自治会長が参加され、有意義だった。 ・「毎日学校に来ることを楽しみにしていましたか。」の質問項目において、昨年度の数値を下回ったが、学校の取組があったの成果ではなかったのか。よく努力されていたのではないかと。
3	(現状) ①R4 学校 Web ページの更新回数は、週 1 回を上回った。R4 学校自己評価「情報公開」に関する質問項目において、保護者の肯定的な回答の割合は、R3 を上回る 95.2%であった。 ②R4 学校自己評価「相談対応」に関する質問項目において、保護者の肯定的な回答の割合は 96.9%と、目標である 90%を達成できた。 (課題) ①学校 Web ページのシステム変更に伴い、更新に関する研修を充実させるとともに、学校運営協議会や PTA の活動を積極的に発信していく。 ②学校運営協議会の実施時期、時間配分、会議内容の充実等を検討する。 ③SSN の充実に向けて、PTA との連携をより一層強化していく。	・新学校Webページへの完全移行と定期的な更新 ・PTA との情報共有と連携の強化 ・学校運営協議会の適切な運営	①新学校Webページへの完全移行と、「北小ブログ」の定期的かつ継続的な更新を行う。 ②「がくぶり」を活用し、配布物のデジタルデータでの提供を開始する。 ③学校運営協議会及びPTAに関する学校 Web ページの内容を充実させることで、保護者・地域の方々に学校の教育活動への関心をもっていただく。 ①学校運営協議会の実施時期、内容を工夫し、熟議の充実を図る。 ②熟議に基づき、具体的な方策を定め、学校と保護者、SSN、地域等との共通理解のもと、協働体制を確立する。	①1学期末までに新学校Webページへ完全移行できたか。また、新学校Webページを週1回以上更新し、積極的に情報を発信することができたか。 ②「がくぶり」を活用して、保護者に積極的な情報提供できたか。 ③R5 学校自己評価「情報公開」に関する質問項目において、保護者の肯定的な回答の割合を90%以上にできたか。 ①R5 学校自己評価「相談対応」に関する質問項目において、保護者の肯定的な回答の割合を 90%以上にできたか。 ②R5 学校運営協議会委員アンケート「学校や地域が抱える課題や学校運営協議会の目標等を共有することが出来た」の質問項目において、肯定的な回答の割合を 90%以上にできたか。	①1学期末までに新学校 Web ページへ完全移行することができた。また、12 月までの更新回数は 47 回と、週 1 回以上を達成できた。 ②文書による配布と学校 Web ページや安心メール、『がくぶり』の併用により、漏れなく情報がいきわたるようにした。 ③R5 学校自己評価「情報公開」に関する質問項目において、保護者の肯定的な回答の割合は 97.1%であり、目標値を上回った。 ①R5 学校自己評価「相談対応」に関する質問項目において、保護者の肯定的な回答の割合は 96.9%であり、目標値を上回った。 ②R5 学校運営協議会委員アンケート「学校や地域が抱える課題や学校運営協議会の目標等を共有することが出来た」の質問項目において、肯定的な回答の割合は 100%であった。	A	・次年度も学校 Web ページ等を通して、児童の活動や学校の取組等を保護者・地域の方に積極的に発信していく。 ・次年度は、『がくぶり』をさらに活用し、ペーパーレス化についても推進していく。	・学校運営協議会で学校運営の成果や課題を共有できた。今後、保護者に周知できるとよい。 ・PTA の広報部とも連携できるとよい。
4	(現状) ①R4 学校自己評価「研修」に関する質問項目において、教職員の肯定的な回答の割合は 100%であった。 ②R4・12 月実施の、児童生徒の ICT 活用状況に係る調査「授業で学習用 PC・タブレットをどの程度使用しましたか」の質問項目において、「ほぼ毎日」と回答した児童の割合は R4・4 月と比較して大幅に増加している。 (課題) ①ICT 支援員による研修を引き続き実施し、支援や研修をより一層充実させていく。 ②PC・タブレットの活用をさらに促進していく。 ③今年度は、市の「小学校金融経済教育実践モデル校」の研究指定を受けている。	・教員の指導力と専門性を高める校内研修の充実 ・小学校金融経済教育の円滑な実施と探究的な学びの推進	①ICT支援員による研修を実施し、教職員のICT活用スキルを高める。 ②校内研修の中で「ICT活用実践交流会」を実施し、普段のICT活用方法、今後のICT活用方法等について学び合う場を設ける。 ③校内研修会で得た知識・技能等を日々の授業で積極的に活用していく。 ④講師との連絡・調整を行い、授業を円滑に実施する。	①R5 学校自己評価「研修」に関する質問項目において、教職員の肯定的な回答の割合を 90%以上にできたか。 ②R5 学校自己評価「授業で学習用 PC・タブレットをどの程度使用しましたか」の質問項目において、「ほぼ毎日」と回答した児童の割合を R4・12 月の値より改善させることができたか。 ③小学校金融経済教育の授業実施により、探究的な学びを推進することができたか。	①R5 学校自己評価「研修」に関する質問項目において、教職員の肯定的な回答の割合は 95.5%であり、目標値を上回った。 ②R5 児童生徒の端末活用状況調査 (R5.9 月)「今の学年で受けた授業で PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」の質問項目において、「ほぼ毎日」と回答した第 6 学年児童の割合は 60.0%と、R4.12 月の値を 12.5%下回った。 ③第 6 学年で小学校金融経済教育の授業を実施。証券会社と連携し、学習プログラムを通じて探究的な学びを推進した。	B	・ICT 支援員やエバンジェリストを講師とした研修会を実施し、新たなアプリケーションの活用など、指導力の向上に努めた。 ・ICT の活用頻度についてはやや課題が見られる。間もなく導入される「スクールダッシュボード」に向けて、児童がタブレット端末を活用する場面を増やしていく。	・ICT 機器の日常的な活用にやや課題が見られる。次年度からの「スクールダッシュボード」本格運用に合わせて、授業等でタブレット端末を積極的に活用していく。